ヲタコン！

～オタクの友人が結婚してしまう件について～

内田まる

シーン１
カジュアルなイタリアンレストラン。
豆乳（２９）、板付き。荷物は既にカゴに入れてある。

豆乳　「（招待状眺め）……。」

半熟たまご（３１）、上手より入場。トイレから戻る。手にはたくさんの紙袋。
豆乳、たまごに気が付き、招待状を急いで仕舞う。

豆乳　「……あっ！　たまごせんせーい！　ここですここ～！」
たまご　「（手の水を払いながら）ふぃ～～、失敬失敬。いやはや、危うく漏れるとこでしたな（笑）コーラＬサイズ飲んだのが明らかに敗因なんだよなあ（笑）」

たまご、荷物をテーブルの上にどさっと置き、どでかいリュックを前に抱え椅子に座る。

豆乳　「あっ……！　たまご先生～お荷物こちらですぞ～～！」
たまご　「あ……あそーゆーことねはいはい、あ～～成程成程。」

たまご、カゴに荷物を入れる。荷物が多すぎてカゴがこんもり。入らないものは床に直置き。

たまご　「……いやっ、明らかにグッズを買いすぎている件についてｗｗ」
豆乳　「ウエハース大人買い絶対今日じゃなくてよかったんだよな～～（笑）」

たまご　「ばかやろぃ！　この中に藤原道長のスーパーレアがあるかもしれんだろうがぃ！」
豆乳　「や～～どうですかねぇ～～道長なかなか出ないからなあ～～……！　あっ！　そうだ～～……」

豆乳、招待状に手をかけようとする。

たまご　「わかりますぞ、豆乳殿。」
豆乳　「えっ！？」
たまご　「在藤？」
豆乳　「えっ？？？」
たまご　「……問題の、在原業平と藤原道長のシーンについて？」
豆乳　「あっいや～～っ……」
たまご　「いや～～！　まさかの！？　在藤！？　同じ画面に収まっちゃってー！？　あんな大スクリーンで！？　や～～こんなことは百人一首大戦というジャンルをかれこれ１０年以上追ってきた考察厨のワイの身から言わせてもらうとですねー……製作陣に在藤推しがいないと説明が付かないレヴェル　ｗｗｗ　そもそも百人一首大戦というのは？　歌人１００人がロボットに乗って宇宙で戦うというトンデモ　ＳＦ　で！？　在原業平と藤原道長は今までで一ミリも絡んでいないというのに！？　一体どういう了見で同じ画面に写っちゃってるのかって話」
豆乳　「（同時に）……あ～……や～～！　おめでとうございますっ！　めちゃ嬉しかったですよね～！　やった～～！　今日は在藤記念日～～！　同じ画面に映っただけだけど～……ワーー、在藤まじで尊い～～……！　あ……えっとぉ……あの～。そうですね。わ、わかりがすぎる～（笑）」

豆乳、相槌を打ちながらコッソリ招待状に手を伸ばしかけている。

たまご　「ていうか今回の映画、作画神すぎやしませぬかねーー豆乳殿！？　クライマックスの紀貫之の作画、明らかに力が入りすぎている件についてwwww」

豆乳　「……（同時に）（前のめりになって）いやまってくださいそれは本当にそれなすぎます。紀貫之のサラ艶ストレート髪と麗しセパレートまつ毛、あれどのアニメーターさんが描いてるんですか？美しいにも程がある。紀貫之の必殺技のシーンだけ異様にぬるぬる動いてましたよね明らかに！？」

たまご　「（被せて）間違いない！　紀貫之を美しく描こうという気概が感じられたww」

豆乳　「（被せて）それなんすよ！　今回相当評判いいですもん監督神すぎる！」

たまご　「（同時に）いやほんまそれな！？　全キャラに愛を感じた特に歌詠み演出がアツすぎて泣いたーーww」

豆乳　「（同時に）いやそれでしかない！　今回珍しくカッキーですらかっこよかったww」

たまご　「（同時に）そうそうそうそう柿本人麻呂が小町たん庇うシーンwww」

豆乳・たまご　「長々し夜を一人かも寝む！！」

豆乳　「（被せて）クッソ盛り上がりましたよね会場ww　ヲタク全員で歌詠んでたもんなああそこwww」

たまご　「（被せて）ホントだよ普段柿投げて**闘ってるくせによォwww」**

豆乳・たまご　「（ハモって）**製作陣の愛が**感じられないwww」

たまご　「wwwwww脳みそ繋がっとんのかー！！（バカデカボイス）」

店員　「**（来ながら）**ご注文お決まりでしょうかー？」

２人、店員に話しかけられ、途端に静かになる。

店員、お冷をおく。

たまご　「アッ……。」
豆乳　「あっ……ありがとうございます……。」
店員　「お決まりでしたらまたお伺いいたします。」

店員、退場。

豆乳　「（独言）違う違う。」
たまご　「（同時に）……いーや、リアルのイケメソきっつ！　つかなんかー……（やっと周り見渡して）、オシャンティーすぎませぬかねえここ～～！　ええ～～？」
豆乳　「あっ。す、すみませぬ～～！　コラボメニュー目当てで、軽率に予約～（笑）　はは……。」
たまご　「ええ？　……（メニュー見て、読み上げ）いやコラボメニューもオシャンティーすぎるｗｗおっ、在原業平と藤原道長のドリンクがっ……」
豆乳　「在藤で揃えて写真撮っちゃいましょ！（メニューしまい）」
たまご　「えっ在藤いいんすかあざすう！」
豆乳　「在藤尊すぎて流石に揃えるｗｗ　と、いったところでぇ～……」

豆乳、バッグから招待状を手元に出しかける。

たまご　「（手で制して）待たれよ豆乳殿！！」
豆乳　「（招待状をしまって）ハイッ！？」

たまご　「……もう、いっちゃいます？」
豆乳　「なっ何がですかッ！？」
たまご　「またまたあ。わかってるくせに～。も～しょうがないですな～！」
豆乳　「えっえっえっ」

たまご、ポケットから銀色の封筒のようなものを取り出す。それは、応援上映の特典ポストカード。

豆乳　「あっそれか……か、開封しちゃいますかー！　今、もう、ね！！」
たまご　「え何狙い何狙い？」
豆乳　「まあ～～……紀貫之一択ですかね～！」
たまご　「失敬、愚問でしたな（笑）　ワイは道長で。」
豆乳・たまご　「せーの！（取り出し）……柿本人麻呂ォ～～！」
たまご　「まじか～～www　100分の1でダブるのはもはや奇跡wwww」
豆乳　「しかもカッキーかあ～～。交換見つかるかなぁ（ケータイ開き）」
たまご　「ww どんなもんすか。（ケータイ覗き）や ww　みんな　【譲渡】：柿本人麻呂 ww　なんでだよおww　カッキー三十六歌仙でさいつよだろ～ww」
豆乳　「（被せて）いやビジュさいよわなんすよ（ケータイ触りながら）」
たまご　「（被せて）いや映画ではカッコよかったじゃないすかカッキーwww はっ……いや待てよ？これで柿本人麻呂×小野小町とかが増えたら最悪なんだが……？」
豆乳　「やー（ケータイの手、止まり）さーいきん流れてきますよね～よく～。　なんか。時々。柿こまとか……」
たまご　「（被せて）いやそうなんすよ。もうね、来るたびミュートしてますからねワイは。男女カ

プNGなんで。この間なんか柿こまの現パロ結婚エンド流れてきてまじで鬱だたワ。小町界隈、小町たんのことやたら姫扱いでみんな攻めにするから嫌なんすよ(マジでこれだけは本当に)」
豆乳　「(被せて)有名絵師の男女カプバズるのあるあるですもんね〜〜……ww」
たまご　「間違いないww　そもそも結婚エンド＝ハピエンみたいな風潮だるいってwww　男女でフラグ立ったらす〜〜ぐ結婚させるの辞めれってwww　百人一首大戦はそんな軽いテーマでやってねーだろってww　エアプですかコノヤローww」
豆乳　「いや〜〜確かにすぎてー…w　……あっ！　そういえば、たまご先生の学パロ在藤ツイート、見ましたよ〜！　ほんと解像度高すぎてー……あっ在原業平がネクタイしてないの解釈一致すぎる〜……！　やーやっぱり藤原道長は俺様受けしか勝たんですね〜。」
たまご　「や〜〜そんな、……あざああす！！　豆乳殿がこの間アップしてた在藤同棲 if イラストもめちゃ良かったぞよーー！　生活感がリアルすぎたww」
豆乳　「きょっ、恐縮です〜〜！　げ、現パロ最近アツいんですよね〜〜なんか〜〜。」
たまご　「(被せて)わかりみ深海まであるww　あっでもなんかふと思ったんすけど、豆乳殿最近低浮上気味じゃないすか？　どしたんすかっ。エッ？」
豆乳　「いやっ……」
たまご　「もしやっ……浮気してるんじゃないでしょうねえ〜！？」
豆乳　「(食い気味)ええっ！？」
たまご　「(食い気味)今季の！？　旬ジャンルに！？　ええっ！？　許せませぬぞ〜〜　豆乳殿〜〜！！」
豆乳　「……いやいやいやホントそんなことは……ww　百人一首大戦一筋ですよぉ！」
たまご　「(被せて)ほんとでゲスかぁ〜〜〜？　あ！　そうだそうだ。来月のオンリーイベント。……学パロ在藤、いっちゃいましょーよ！　ね！　ワイ原案・豆乳殿作画！！　毎回恒例・バクマン式在藤合同誌！」

豆乳　「あ～～……！　い～かも～……ですね～……。」
たまご　「？　あ、紀貫之学パロがいいってー？　もーしょうがないですなあ！　今回だけですぞーｗｗ」
豆乳　「あの、すみません！！！」

豆乳、立ち上がり、招待状を机に叩き置く。

シーン２
たまご　「え？　……（招待状を見て）え、何これ……サークルチケット？」

豆乳、周り気にした後、咳払いし、居住まいを正す。「開けろ」のジェスチャー。

豆乳　「……。」
たまご　「……（開けて）。……拝啓、早春の候（こう）、皆様におかれましてはますますご清祥のことお慶び申し上げます……この度私たちは挙式をすることとなり……。」
豆乳　「……す……。」
たまご　「……エッエッエッエッ？　どゆこと？　きょ、きょし、……結婚式ってこと？？　エッ誰？　何？　在藤の？」
豆乳　「や……あの……自分です。」
たまご　「自分？　自分って自分？　……エッ豆乳殿…？　このMIKURU&KENTAROって、と、豆乳殿……？　エッ？」
豆乳　「……豆乳、もとい如月未来（キサラギミクル）２９歳、このたび一般男性と……結婚いたします！」

たまご　「け、けっこんんんん！？！？！」
豆乳　「結婚ですっ！」
たまご　「いやっ、いやいやいやっ！　無理無理無理無理エッ！　エッ結婚！？　いやワイ結婚イフ地雷だっつってんじゃん！　エッ？　柿こまにとどまらず豆乳殿まで結婚エンド！？！？　いやいやいいっていいいっていって。　エッ？　あっ、夢？」
豆乳　「げ、現実です、一応。」
たまご　「げ、げ、現パロ結婚エンドやめれってええええ！　やまじかあああ……。　えいついついついつ」
豆乳　「い……っかげつ後です。」
たまご　「いっ……かげつ後……っ！？　えっ！？　4月！？　えっ！？　今度のオンリーイベントは！？」
豆乳　「ちょっと……無理かもです。」
たまご　「むっ　エッ　はっ！？　あ夏コミは！？　毎年一緒に出てる」
豆乳　「ちょっと……ハネムーンかもです。」
たまご　「えっえっえっちょっはっ！？　ハネッ、ハッ……はあ！！？？　ふ、ふ、冬コミはっ！？！？！？」
豆乳　「旦那の実家に帰省かもです。」
たまご　「ブーーーーーッ（口から息が吹き出る音）」

たまご、泡吹いて倒れる。すぐに意識が戻り、大混乱。

たまご　「はっ……え、は、ハァアア？？！？　ど、ど、どーいうことォ！？？！」
豆乳　「ギリギリになっちゃって、本当すいません……。4月はその、……実は記念日があって…

…！　その日に式したいって、旦那が……。」
たまご　「き、きねんびぃ！？　旦那ぁ！？　オンリーイベントより、記念日と旦那が大事ってかァーーー！」
豆乳　「や、そんな……いやーー、話せば長くなりますけどぉ……やまあ、仕事関係の？　まあ、取引先の人なんですけどぉ……。飲み会でちょっと、アニメとかの話で盛り上がって……？　流れでイベント出ること言っちゃったんですけど。そしたらその、本当に来てくれて……。あ、1年前のオンリーイベントです、丁度！」
たまご　「は、はいぃ？　ほんで？　同人誌買ってくれて？　絵上手いね、僕の似顔絵も描いてよ笑笑とか言われて？　えータダじゃかかないですよ～とか言って？　じゃあ今度ご飯でも行こうよ～とか言って？　逢瀬（おうせ）を重ねて？　2人の愛は深まって？　いつの間にやら付き合っちゃったって、そーいうコト！？」
豆乳　「……さすが考察厨ッ！！（拍手）」
たまご　「拍手やめれ！？　かっ勝手にくっついてイチャイチャイチャイチャ発情期ですかコノヤロー！　ええっっ！？　崇高な在藤が汚れるだろうが！！　ハッ…てか、もしかして最近イラストリアルな同棲イフばっかだったのって……そういうことぉ！？！　ちょちょちょちょ禁忌犯しちゃってるってソレ！！　実体験の男女関係を持ち込み出したら同人作家は終わり！　終わりなのマジで！！　はい豆乳殿終了のお知らせー！！　速報！　速報レベルですねこれえ～！！」

豆乳、髪をほどき、メガネを外している。

たまご　「って、エッなになになに？」
豆乳　「みくるです。」
たまご　「エッ……ニセモノ？？」

豆乳　「本物です……！」
たまご　「エエッ……。」
豆乳　「これがっ普段の姿なんですっ……！！」
たまご　「……ヒッ…ヒトじゃん……一般人じゃん！！　は、謀ったなァ！？」
豆乳　「……たまご先生。」
たまご　「な、なんだ一般人……！」
豆乳　「名前、教えてもらえないですか？」
たまご　「た、たまごだが？」
豆乳　「……このタイミングで知ってるハンドルネーム聞く理由って何かあるんですかね？」
たまご　「エッァッ」
豆乳　「ん？」
たまご　「……うっ、臼井珠子ですっ……。」

豆乳、たまごから招待状を取り、宛名に名前を書いて再度手渡す。

たまご　「うっ……。」
豆乳　「……たまこさんは、いつも、ずっと、これからも、【そう】なんですか？」
たまご　「たまこさんって呼ばないでェ！？　半熟たまご先生って呼んでェ！？」
豆乳　「ずぅーっと言いたかったんですよ、本当は……！　でもたまこさん、ずっと【そう】だから……私も中学生の時の洋服とかタンスから引っ張り出して、ネットのノリでずっとやってきましたけど……。ごめんなさい、もう限界で。えっと。……あの、えっと今年、……31歳？」
たまご　「い、イテテテテテテ……え、え、なに急に、社会？　あなた社会の擬人化？」

豆乳、招待状をたまごの方に押し出す。

豆乳　「たまこさんが人間苦手なのはよーく分かってるつもりです。……けど、どうしても出てほしいんです。私の結婚式。」
たまご　「い、い……イヤ。」
豆乳　「……。」

豆乳、息を吐く。

豆乳　「（店員に）すみませーん。」
たまご　「っ！？！？」
店員　「はい、お伺いしまーす。」

店員、注文をとりに来る。（豆乳を二度見）

たまご　「ァッ。」
豆乳　「（すらすらと）在原業平の竜田川もみじドリンクと、藤原道長の望月ドリンク、1つずつお願いします。ランダムコースター付きの。（たまごに）……で、よかったですよね？」
たまご　「（口パクパク）」
豆乳　「たまこさん？」
たまご　「アッハイッダイジョウブデス」
豆乳　「（店員に）お願いします。」
店員　「かしこまりましたー。もみじドリンクおひとつ、望月ドリンクおひとつですね。メニュー

お預かりいたします。」

店員、メニューを受け取る。

店員　「失礼いたします。」

店員、去る。

豆乳　「……たまこさん。さっきの続きなんですけど。その、ス（ピーチ）」

たまご　「きょ、今日はちょっと！！　もう帰らせていただこうカナ～……ッ？」

たまご、バッグを取り帰ろうとするも、グッズを豆乳に取られる。

豆乳　「道長SRがっ、どうなってもいいのかーっ！！」

たまご　「み、道長を人質にィっ……！　貴様ぁ、アニメ第23話「望月を狩る者」通りのことをォっ……！」

たまご、グッズを取り返そうとするも、運動神経が悪すぎて取り返せない。

たまご　「～～～！　クッ、クソガッ！！」

豆乳　「大人しく話を聞いてくれれば、道長はちゃんと返します。」

豆乳、たまごに「席に座れ」のジェスチャー。

たまご、仕方なく席に座り、机を叩く。

豆乳　「……出席、お願いできないですか。（頭下げて）」
たまご　「でっ……できないデスそんな浮かれポンチどもの集会」
豆乳　「……すみません。実を言うともう席は仮押さえしてあります。」
たまご　「オイィー！　拒否権ぐらいあれー！！　えなんの確認の時間コレエ！？」
豆乳　「形式上の……」
たまご　「ほんなんならないほうがマシじゃろうてーー！」

豆乳、たまごの手を取る。

豆乳　「たまこさん！　……たまこさんはいつも、【そう】だから、一緒にいると、……古傷が痛むときが、あります。」
たまご　「……ワイ今悪口言われてマス？」
豆乳　「そんなつもりは全くないです！」
たまご　「全くない方が傷つきます！」
豆乳　「す、すみません。いや違うんです。【そう】なのが悪いって言いたいんじゃないんです！ただ、その、やっぱりこう……」
たまご　「……変われと？」
豆乳　「変われっていうか、うーん。ちょっと、こう。うちの親とかもくるし……うるさいんですよ、うちの親……それにケンタロウさんのご家族とかも来るから……」
たまご　「からなんスか。」
豆乳　「……。」

たまご　「豆乳殿は、結婚したら、ヲタ卒……する感じスか。」
豆乳　「……それは……なんとも、言えないですけど。今は。」
たまご　「……。」
豆乳　「けど。……私、結婚式のスピーチは、たまこさんにお願いしたいから。」

たまご、髪をガシガシやったり、上を向いたり、ぶつぶつ言ったりする。
そのうち、小声で百人一首を唱え出す。（道長「この世をばわが世とぞ思う望月の欠けたることも無しと思へば」業平「ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれないに水くくるとは」）

豆乳　「……あ、入っちゃったなこれ……。」

シーン3
豆乳、時計を見て、電話しようとする。

たまご　「……ちょちょちょちょっと！？」
豆乳　「？　……あっ、ケンタロウさんです。」
たまご　「ダメダメダメダメェ！　まだ良いって言ってないよォ！？（ケータイ奪い、電話を切る）」
豆乳　「百人一首詠んでるからＯＫなのかと……。」
たまご　「良いわけないでしょ！！　封印！　封印封印！！！（バックに入れ）」
豆乳　「あ、ちょっと！？」

たまご、大きく息を吐いたあと、その場に立ち手を挙げる。

たまご　「ハイっ！　えー、分かりました。ワイは今から豆乳殿を、説得いたす！　ヲタクがどれだけ素晴らしいかを、ここで思いださせる！！」
豆乳　「な、なに！？」
たまご　「豆乳殿が納得したら、結婚はナーシ！　一緒にイベント出る！！」
豆乳　「めっ、めちゃくちゃじゃないですかっ！」

たまご、手で豆乳を制する。。

たまご　「万が一、豆乳殿が納得しなかったら……結婚も勝手にしなはれ。オk？？」

たまご、手を差し出す。

豆乳　「……。」
たまご　「友との約束は破らん。それが本物のヲタクってもんですよ、はい。」
豆乳　「……こ、この後に及んで最終回の紀貫之みたいなことを……。」

豆乳、迷いながらも手をとる。
たまご、がっしりと手を握りシェイクハンズ。

たまご　「取・引・成・立ッ……！　人類ヲタク化計画、始動―！」

音楽、照明変化。

たまご　「（街頭演説っぽく）はんじゅくっ、半熟たまごですっ！　ワイは、人類ヲタク化計画を、推進いたします！　全ての結婚式を、同人誌即売会へと変更！！　もしもお相手が遠方に転勤の際はー！？　ご安心ください！　豆乳殿は東京に残らせます！　ついてってもそこに在藤なんかありませんからねーーーー！！　男も女も小鳥も鈴もオタクはオタク！　半熟たまご。半熟たまごに清き一票をお願いいたします！」

豆乳　「ちょちょちょ待ってください！？」

たまご　「どんな時でも、ライフステージとか言うのが変わっても！？　オタクやめなくていいよね！！　ハム太郎！　ヘケッそうなのだ！　たまご先生の言うとおりなのだ！　オタクは結婚なんかに負けるわけがないのだ～～ー！！　うわあーーー！　あーーーーー！！」

豆乳　「（遮って）ストーーップ！！　無理です！！！」

たまご　「（余韻で）……ぁぁ～～……。」

豆乳　「無理、なんです……。今でももう、仕事も恋愛もで、オタ活に回す時間も体力もなくなってきてるし……。私、……私はっ……。ごめんなさい。私、たまこさんとは、違うんです。……下心で人気キャラの紀貫之描いたりする、きったねえオタクなんです！！！！」

たまご　「！？　と、豆乳殿！？」

豆乳　「紀貫之のビジュが天才なのは一旦横に置いといて。正直な話、……いいねが欲しい。リツイートされたい。引リツで感想言われたい。Pixiv のランキングのりたい。売れたい。フォロワーさん増やしたい。界隈で有名な絵師と繋がりたい。あわよくば有名絵師とオフ会して「〇〇さんとのオフ楽しかった～！差し入れもありがとうございます♡」とか呟いてそこらへんの絵師にマウント取りたい。満たされたい。」

たまご　「……でっ、でも豆乳殿の絵はっ」

豆乳　「でもっ！　たまこさんにはそれがない。誰にも媚びてない。一生在藤のありもしないネタ

を100個も200個も考えてhshs//とか言ってるんですよ！」
たまご　「〜〜ほっ、褒めるか貶すかどっちかにしてもらっていい！？」
豆乳　「本当に心からオタクだったら、……たまこさんみたいだったら！　相手ができたってだけで、オタ活がおろそかになったりしないんでしょうけど！」
たまご　「……そ、そんな感じで言うんだったら？　結婚せんでええでしょーよだから。結婚して、人妻になって、味噌汁なんか作らんでええんやでヲタクは。ヲタクはツイッターだけしときゃそれでええーー！！」
豆乳　「（被せて）った、たまこさんが思ってるみたいに、現代の結婚って、そんな昭和な感じじゃないですし！　そもそも……」
たまご　「ヴアー！　ルセーー！　もーーっ！　いーからっ！　ヲタクしましょーよ豆乳殿！　ほら！　いつもみたいにまた同人誌作って！　コミケ出て！　帰りにファミレスで在藤の妄想語り尽くして！！　また米津玄師聞いて、どれが○○のイメソン〜とか、そんなくだらんこと、これからも2人で話したいんすよ！」
豆乳　「っい、いーですねたまこさんは！　ずーっとそんなことばっかり言えて！　あっ社会に出たことがないからか！」
たまご　「な、なにィ！？」
豆乳　「たまこさんって、普段何されてるんですか一体！」
たまご　「い、今は。深夜の、コンビニバイトだが何か……！」
豆乳　「そうですか。……出たことあります？　それより外に。あ、都内に住んでるんでしたっけ。実家？」
たまご　「ま、まあ、ええ。そうでござるが……。」
豆乳　「ああ。いいなあ〜〜〜……！　帰省する度にいつ結婚するのとか聞かれないですもんね！……怖くなったりしないですか……。　みんなが自分を見下してるんじゃないかとか、自分は何か足

りてないんじゃないかとか、不安にならないならその方法教えて欲しいくらいですけど！」
たまご　「……わ、ワイは……。」
豆乳　「たまこさんは、……８０なってもたまご先生続けられるって、本気で思ってるんですか？」
たまご　「……ワイは、豆乳殿となら、ババアになっても老人ホームで有藤の同人誌作って、無料配布してると**思ってたよ**……。」
豆乳　「っ……。」

沈黙。

シーン４

店員、飲み物を持ってくる。

店員　「お待たせいたしましたー。望月ドリンクでございます。もみじドリンクでございます。」
豆乳　「……どうも……。」
たまご　「……ザス……（コースター見て）あ……。」
店員　「ごゆっくりどうぞー！」

店員、退場。

たまご　「……紀貫之っ……。」

豆乳、自身のコースターをたまごに差し出す。

豆乳　「……藤原道長。」
たまご　「…あ……ドモ……。」

たまご、自身のコースターを豆乳に差し出す。

豆乳　「……ありがとう、ございます……。」

2人、ジュースを飲む。

たまご　「……くっ、黒歴史あるけど、なんか質問ある？」
豆乳　「え、な、なんですか、急に……。」
たまご　「さっきの話、あのー、……ちょっとだけほんとで、実は。」
豆乳　「……さっきって……え、……人類ヲタク化計画？」
たまご　「豆乳殿と出会う前、……働いてマシタ。正社員で。」
豆乳　「えっ。」
たまご　「……えー、新卒で入った会社～、神絵師のパイセンがいて。いやーー、まさかの在原業平総攻めとかいうニッチな神絵師でしてww同人とか扱ってたんで、ヲタクばっかで周り。でもなーんかやっぱり？　ワイ、トクベツなオーラ出しちゃってたカナ～？　まあ浮いて、いつも通り。パイセンだけが、こう、唯一、喋る感じの……。」
豆乳　「……なるほど。（ジュース飲んで）」
たまご　「ほんでまあ、そのパイセン、シンガポール行っちゃったんすけど。」
豆乳　「（飲み物吹いて）しっ、シンガポール！？」

たまご　「パイセンは仕事辞めたくなさそーでしたけど、なんか？　旦那のチューザイ？　についてくっちゅう。……3年後くらいカナー。会ったらもう子ども抱えてて。「自分には両立難しかったわー」って。話題ももう、百人一首大戦なんて1ミリも出てこなくて。……んで、それっきりっていう。……何それ、悔しすぎるんだが。……だ、だからワイはね！　何があっても、ずっとヲタクやったろー！って、たまごオリジン会とでも言いますか。……って、そんだけなんか～い。」

豆乳　「……そう、ですか。」

たまご　「……。あい。」

2人、沈黙。
ジュースを飲み切る。

豆乳　「（思い出して）あっ。写真……。」

たまご　「あっ。……あぁ……。」

豆乳　「……。」

豆乳、熟考の末、思い切ってバッグからスケッチブックを取り出す。
豆乳、絵を描いて、ちぎってたまごに手渡す。

たまご　「……あ、ありふじ……！？」

たまご、バッグからスケッチブックを取り出し、絵を描き出す。

豆乳　「な、何を……。」

たまご、黙って絵を描く。
豆乳、黙ってそれを見る。
たまご、自分の指を見ながら描いている。

たまご　「……ちょっと失礼。」
豆乳　「え？」

たまご、豆乳の手をデッサンしようとする。
最終的に、自分の手を豆乳の顎に持っていき顎クイポーズでデッサンをし始める。

豆乳　「ななななんですか！？」

たまご、一生懸命絵を描く。
豆乳、絵を覗く。そこには紀貫之のイラスト。

豆乳　「……き、紀貫之……！？」
たまご　「…～～～指むずっ！！！！」

たまご、一度スケッチブックを放るが、少し考えた後、再度挑戦。

たまご　「豆乳殿！！」
豆乳　「な、なんですか！」

たまご　「…指ってどーやって描くのか、教えてもらっていーっすか！！！」
豆乳　「え…あ……。」
たまご　「オネガイシャス！！」

たまご、ビシッと９０度の礼。
豆乳、圧倒される。スケッチブックとペンを受け取る。

豆乳　「……四角で手のアタリ描いて、関節のところマルでアタリとったら…描きやすいかと……。」
たまご　「おおっ…！　…ざす…！」

たまご、豆乳の指示を受けながら絵を描く。

たまご　「…できた！！」

たまご、完成絵をこちらへ向ける。めちゃくちゃ下手。

豆乳　「おっ……と～？」
たまご　「どーすか。」
豆乳　「…伸び代があります。」
たまご　「……。」
豆乳　「……下手です。」
たまご　「分かってるが！？　なにゆえわざわざ言った！？」

豆乳　「下手だから…。」
たまご　「キー！　コンチクショーー！」

たまご、めちゃくちゃ絵を描く。

豆乳　「ど、どうしたんですか、急に絵なんか。」
たまご　「ワイは、８０までヲタクをやる。１００まで、２００まで、一生やり続ける。」
豆乳　「……。」
たまご　「自力で本、作ってやる。後世に残る偉大な妄想を、大量に！　死ぬまで！！　ずっと！　ずっとずっとずっと！！」
豆乳　「……たまご、先生……。」
たまご　「…体ムズすぎんだろッ！！」

豆乳、たまごを見つめる。

豆乳　「あの、私……やっぱり……。」

豆乳のケータイに電話。ケンタロウから。
豆乳、戸惑う。ケータイはたまごのバッグの中。
たまご、なかなか切れない着信を取る。

豆乳　「あっ。」
たまご　「……。」

たまご、黙ってケンタロウの声を聞いている。
たまご、ゆっくりと豆乳に電話を差し出す。

豆乳　「……もしもし、うん私。ごめん、ちょっと……電波が悪かったみたい。……え？　式？　うそ。いや、いやいや。1ヶ月後だから……キャンセル料とか、もう招待状も……うん、うん。そうだね、大切な用事とは、まあ、（たまごを見て）……被ってる。延期してもらえたら、そりゃ、助かる、けど……。うん。うん。わかった。もし何かあったら教えてほしい。うん、うん、ありがとう。　はーい。また後で。」

豆乳、電話を切る。

豆乳　「すみません。　…あ、あの。」
たまご　「喋った。」
豆乳　「え？」
たまご　「ケンタロウサン。」
豆乳　「や、そりゃまあ……。」
たまご　「豆…みくる殿を心配してる、ただの、生きてる人。」
豆乳　「……そう、ですね？」

たまご、箱のウエハースを指差す。

たまご　「道長。」

豆乳　「え？」
たまご　「道長SRが出たら、一緒にイベント出よう。最後のイベント。」
豆乳　「……そ、んな……。」

たまご、ウエハースの箱を半分に仕分ける。

豆乳　「あ、ちょっ…店内じゃ……。」
たまご　「やってやんヨ。スピーチも。」
豆乳　「……え、たまご先生」
たまご　「（被せて）道長出たらナー！　……そんで、それで終わりじゃ。」

豆乳、考えたあと、**袋を取り出し**、ウエハースを食べ出す。
2人、ウエハースを黙々と食べ始める。
店員、入場。

店員　「申し訳ありませんー……お持ち込みのご飲食は店内ではご遠慮いただいてましてー……。」
豆乳　「すいませっ…あとちょっとなんでっ、こ、これ全部食べ終わってからっ、お会計お願いしまっ…！！」
店員　「お願いいたします。」

2人、食べ続ける。ふと2人とも、手が止まる。

豆乳・たまご　「あっ、柿本人麻呂。」

暗転。

電話音。

豆乳がスポットライトで浮かび上がる。手には同人誌。

豆乳　「ごめんね？　色々任せちゃって。ありがとねほんとに。え？　あ、もう着いた着いたー。買ったよーたまご先生の新刊。ケンタロウくんの分も。今回漫画だよ！　びっくりするくらい練習してたよー。凄いんだからほんと。尊敬だよ。歳とか関係ないんだよ、たまご先生には。……出ようかなあ私も、来年やっぱり。うん。私ねー、好きなの。絵描くの。　……んー？（同人誌をペラリとめくりながら）えっとねー、今回はー、在藤のー……え、嘘。新婚生活イフ？　やだ、もー……！（同人誌に顔を埋め、ちょっと泣く）」

暗転。